NOBORIBETSU GUIDEBOOK

きらり登別

登別市長　小笠原　春一

登別市は、太平洋に面し、支笏洞爺国立公園をはじめとする豊かな自然環境と多種多量の温泉に恵まれ、北海道有数の観光都市として発展してきました。

名湯・登別温泉には、全国から多くの観光客が訪れていますが、最近は中国や台湾などのアジア各国からの観光客も増え、国際色豊かな観光地として、にぎわいを見せています。

本市では、この恵まれた自然や温泉などの資源をまちづくりに活かすとともに、『市民と行政による協働のまちづくり』を基本に、市民と行政が共に汗を流し、互いに喜びを分かち合える、個性豊かで魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

このガイドブックでは、観光をはじめ、力強く発展を続ける本市の姿や、まちの様子、市民と行政が一体となった取り組みなどを紹介しています。

観光の魅力や自然の美しさ、まちづくりに向けた市民の熱い思いにふれていただければ幸いです。

登別市章

力強く伸びる市の将来を表現したもので、登別の頭文字「の」を単純かつ明瞭化し、円内左右の空間は市勢伸長の二大基盤である工業、観光の意義を含め、中心の長三角形は限りなく躍進する登別市の発展を願ったものである。

登別市民憲章

わたしたちは　古い歴史と美しい自然に恵まれた登別の市民です
ここに　わたしたちの心がまえを定めてよりよいまちをつくることに
努めます

一　心身をきたえよく働いて　活気あふれる豊かなまちをつくりましょう
一　親切をつくし　きまりを守って　明るく住みよいまちをつくりましょう
一　自然を愛し　力をあわせて　緑と空気と太陽のいっぱいあるきれいなまちをつくりましょう
一　未来をつくる青少年の　健全な夢の育つまちをつくりましょう
一　教養をつみ　視野を広げて　平和で文化のかおり高いまちをつくりましょう

制定　昭和43年9月20日

登別市の花 キク

登別市の花木 ツツジ

登別市の木 プラタナス

NOBORIBETSU GUIDEBOOK

きらり登別

CONTENTS

4 Chapter 1
登別の名湯が
旅人の心と体を癒やす

6 Chapter 2
見る、遊ぶ、体験する
湯のまちは見どころいっぱい

8 Chapter 3
太平洋と緑豊かな台地
自然の恵みに、産業が息づく

9 Chapter 4
恵まれた環境や風土を、
未来へ手渡す

10 Chapter 5
ふるさとの文化を
知る・伝える・創る

11 『登別150年』への旅（年表）

14 Chapter 6
知恵と汗で創る
明日の登別

16 Chapter 7
人と人をつなぐ
まちを未来へつなぐ

17 Chapter 8
まちを、海を、国境を超えて、
結ばれる友情、広がる交流の輪

18 のぼりべつイラストマップ

登別の名湯が旅人の心と体を癒やす

環境省『かおり風景100選』選定（平成13年度）
北海道遺産選定（平成16年度）

地獄谷

約１万年前、日和山の噴火活動によりできた爆裂火口跡が地獄谷です。直径約450㍍、面積約11㌶の谷底には数多くの湧出口や噴気孔が点在している。大地獄を中心に15の地獄があり、そのすごさを物語っている。ここから硫黄泉、明ばん泉、鉄泉など成分が異なる湯が毎分約3,000㍑もわき出し、温泉街のホテルや旅館に給湯されている。

登別といえば、やはり温泉。登別温泉は、日本を代表する温泉郷だ。質・人気ともに非常に高く、観光専門紙の調査で『日本一』に輝いたこともある。

ＪＲ登別駅から北へ約８㌔に位置する温泉街には、最大の泉源地である地獄谷が噴煙を上げ、熱湯や水蒸気がわき上がっている。

地獄谷のほか、泉源はいくつもあるが、温度は45～90度といずれも高温で、１日１万㌧の温泉がわき出し、温泉街のホテルや旅館に給湯されている。

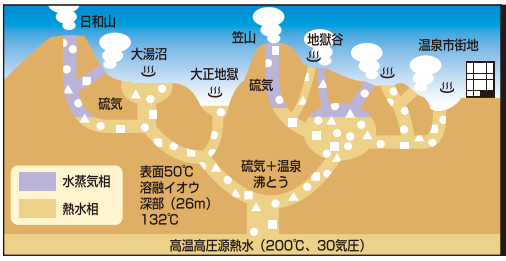
登別温泉の大きな特徴は、９種類もの源泉がわき出していること。これは世界的にも珍しく、登別温泉は『温泉のデパート』ともいわれている。

最近では、国内のほか、香港、台湾、韓国、中国など、海外から訪れる人も年々増加している。

そのため、温泉街では外国の言葉や文化を学ぶなどして、海外からのお客様のおもてなしにも力を入れている。

世界に誇る９種の泉質

温泉とは、地中から湧出する温水および鉱水や水蒸気、ガスの温度が摂氏25度以上か、もしくは温泉法で定められた物質のいずれかひとつの基準量を含んでいるものを呼ぶ。登別温泉の大きな特徴は、９種類もの源泉がわき出していることで、これは非常に珍しい。



●登別温泉模式図
高温高圧の熱水が下から上がってきて沸騰し、硫気（硫黄泉のもとになる硫化水素や二酸化硫黄を含む）と温泉（食塩泉の成分である食塩やカルシウムを含む）にわかれる。

登別温泉の泉質と効能を紹介します。
（【　】内は掲示用新泉質名）

硫黄泉【硫黄泉】
登別は硫化水素型。見た目は乳白濁で独特のにおいがする。毛細血管や冠状動脈を拡張させる働きがあるため、慢性気管支炎や動脈硬化症に効くほか、解毒作用により慢性皮膚病にも良いとされている。

食塩泉【塩化物泉】
日本では、最も多い泉質のひとつ。無色透明で、塩辛い味がする。保温効果が高く、ポカポカと湯冷めしないため『熱の湯』とも呼ばれる。神経痛や腰痛、冷え性などに効き目がある。

酸性泉【酸性泉】
ＰＨ（水素イオン濃度）が３以下で、火山地帯に多い無色透明の温泉。殺菌力が強いので湿疹などに効果があるとされているが、皮膚の弱い方は入浴後に真水で洗い流した方が良い。

芒硝泉【硫酸塩泉】
硫酸塩泉のひとつで、陰イオンが硫酸イオン、陽イオンはナトリウムが主成分。無色透明で塩味がある。高血圧症や外傷、動脈硬化症などに良いとされている。

石膏泉【硫酸塩泉】
硫酸塩泉のひとつで、陰イオンが硫酸イオン、陽イオンはカルシウムが主成分。鎮静効果があり、切り傷、やけど、打ち身、痔に良く、高血圧症や動脈硬化症にも良いとされている。

鉄泉【含鉄泉】
鉄イオンを１㌔㌘中、20㍉㌘以上含んでいる源泉。空気に触れると赤茶色になり、金属味がすることもある。良く温まり、貧血症や慢性湿疹などにも良いとされている。

明ばん泉【含アルミニウム泉】
明ばんとは、硫酸アルミニウムのことで、火山地帯に多い泉質。皮膚や粘膜を引き締め、慢性の皮膚疾患や粘膜の炎症、水虫、じんましんなどに良く、道外では草津温泉が有名。

緑ばん泉【含アルミニウム泉】
陰イオンが硫酸イオン、陽イオンは鉄が主成分。強酸性で、銅やマンガンなどの鉱物を含むことが多い。良く温まり、貧血症や慢性湿疹などに効き目がある。

重曹泉【炭酸水素塩泉】
陰イオンが炭酸水素イオン、陽イオンはナトリウムイオンが主成分。無色透明で皮膚の角質層を軟らかくし、分泌物を乳化する作用があるので『美人の湯』とも呼ばれている。皮膚病や切り傷などに良いとされている。

登別の奥座敷 カルルス温泉

登別温泉から北西へ約８㌔、車で10分のところに位置するカルルス温泉は、明治19年、日野愛憙が登別川上流の調査をしていた際に発見した。

その３年後、愛憙の養子・久橘が再びこの温泉を発見。試しに温泉の湯を飲んだところ、持病の胃カタルが治ったことから興味を抱き、温泉の開発に情熱を注ぐことになる。

明治32年、道路や旅館を整備し、当時、世界的に有名な温泉保養地として知られていた、チェコスロバキアのカルルスバード（現在のカルロビ・バリー）に泉質や地形が似ていることから、カルルスと命名された。

泉質は、無味・無臭・無色透明の芒硝性単純温泉。昭和32年には、国から北海道で最初の国民保養温泉地に指定された。

見る、遊ぶ、体験する 湯のまちは見どころいっぱい

ゆっくりと登別の名湯につかった後は、まつりやテーマパーク、自然散策などを楽しんでみよう。

温泉街では、毎年、登別地獄まつりや登別温泉湯まつりなど、湯のまちならではの熱気あふれるイベントが開かれ、多くの観光客でにぎわいを見せている。

また、家族で楽しめる施設として、登別マリンパークニクスや登別伊達時代村、のぼりべつクマ牧場などのテーマパークが人気だ。

登別温泉の周辺は、自然の宝庫。灰黒色の熱湯をたたえる大湯沼や、湯沼が7色に変わる大正地獄、白煙を上げる日和山、天然記念物の登別原始林など、四季折々の風景を楽しむことができる。

最近では、パークゴルフや乗馬、野外体験活動などと温泉を組み合わせた体験型観光にも力を入れている。

登別温泉湯まつり

豊かな温泉の恵みと効能に感謝し、開運と無病息災を願い、毎年節分に行われる冬の一大イベント。

厳冬の中、下帯姿の若者が二手に分かれて湯をかけ合う『源泉湯かけ合戦』が始まると、会場は熱気に包まれる。

◎開催日／２月３日・４日
◎場　所／登別温泉街

カルルス温泉冬まつり

サンライバスキー場を会場に、雪中みかん拾いや親子ボブスレー大会、少年スキー大会、雪上もちまきなど、楽しいイベントが盛りだくさん。

◎開催日／３月第１日曜日
◎場　所／サンライバスキー場

登別地獄まつり

年に一度、地獄の釜のふたが開き、閻魔（えんま）大王が赤鬼・青鬼を従えて温泉街に現れる。

若者が重さ１の赤鬼みこしを担いで温泉街を練り歩く『鬼みこし暴れねりこみ』や迫力満点の『閻魔大王からくり山車（だし）』、『鬼踊り大群舞』など、絢爛（けんらん）豪華な地獄絵巻が繰り広げられる。

◎開催日／８月の最終土・日曜日
◎場　所／登別温泉街

登別の自然

倶多楽湖

大湯沼

大湯沼

地獄谷の北東、爆裂火口跡に湯をたたえた周囲約１㌔㍍のひょうたん型の沼。最深部は約25㍍あり、地底からわき出た130度の熱湯によって温められ、表面温度は40～50度で灰黒色をしている。昔はこの沼で硫黄を採取していた。沼を見下ろす展望台がある。

大正地獄

大正時代に起こった小爆発で生じた湯の沼。89度の鉄分を多く含んだ湯が毎分100㍑も激しく噴き出している。10日間程度の周期で湯の量が増減を繰り返す間欠泉で、湯量が減ったときには、地の底から無気味な地鳴りが聞こえる。湯の色が白、青、黒、ピンク、グレーなど７色に変わることでも知られている。

登別原始林

大正地獄

倶多楽湖（くったら）

登別温泉の東、手つかずの原生林に囲まれたカルデラ湖。周囲約8.5㌔㍍、最大水深は147㍍もあり、ほぼ円形をしている。湖に出入りしている川がなく、透明度は28.3㍍と、平成13年度に摩周湖に次いで全国第２位。水質は平成９・10年度に日本一に輝くなど、日本屈指の美しい湖として知られている。

登別原始林

大正13年、登別温泉付近の区域が国の天然記念物に指定された。現在、その面積は約186㌶で、約170種の樹木・草木が保存されている。遊歩道が整備されていて、ミズナラやセンノキなどの巨木を見ることができる。

登別三大テーマパーク

登別マリンパークニクス

北欧のロマンチックな街並みを再現したテーマパーク。内部が水族館になっている『海洋美術館ニクス城』には、頭上をサメやエイなど、さまざまな魚群が回遊する寒流・暖流の２つのアクアトンネルがあり、海底散歩を体感できる。イルカやペンギン、アシカのショーなどのイベントも大人気だ。

登別伊達時代村

江戸時代の街並みを時代考証に基づいて忠実に再現。94棟の木造建築物が建ち並び、スタッフ全員が江戸時代の着物姿。まるで、江戸時代へタイムトラベルしたような体験が味わえる。忍者怪々迷路や妖怪びっくり小屋、お大尽遊びを再現した日本伝統文化劇場などがある。

のぼりべつクマ牧場とユーカラの里

登別温泉街からロープウエーで約７分、標高550㍍の山頂で、約160頭のヒグマを飼育している。自転車のりや玉のりなど、愛きょうあるクマのショーが楽しめるほか、世界でも珍しいヒグマ博物館やアイヌの人びとの生活を再現したユーカラの里などがある。

太平洋と緑豊かな台地 自然の恵みに、産業が息づく

新鮮な海の幸を味わう

登別漁港まつり

大漁旗で飾られた漁船が並ぶ登別漁港を会場に、歌謡ショー、花火大会など盛りだくさんのイベントのほか、地元で獲れた新鮮な海の幸などが格安で販売され、大勢の買い物客でにぎわう。

●開催日／９月上旬
●場　所／登別漁港

地場農畜産物のブランド化に向けて

室蘭登別酪農振興協議会（登別、室蘭市内の酪農家が加入）の出荷した生乳が、北海道トップクラスの乳質を誇っています。
㈱のぼりべつ酪農館では、この衛生的で良質な生乳を原料に牛乳やアイスクリーム生産を手掛けるなど、地場農畜産物のブランド化に向け取り組んでいる。

■農業

森林が市総面積の73パーセントを占めるなど、豊かな緑に恵まれた登別市。農業は、酪農、畜産を主体に発展し、牧草地は農用地面積１千111ヘクタールの62・9パーセントを超える。

経営者の高齢化や後継者不足から農家戸数が減少する中、近年は、従前の生産する農業からの脱皮に向けて、豊かな緑と広大な台地のもと、観光産業と結びついた体験型農業を推進している。

また、地元産の食肉や乳製品の加工・研究、特色のある地元ブランドの開発を目指して設置された札内高原館では、現在、㈱のぼりべつ酪農館（地元酪農家や法人などが出資し設立）が牛乳・プリン・アイスクリーム・ソーセージなど地場農畜産物の加工に取り組んでいる。

札内高原館

■水産業

登別市には、登別漁港、鷲別漁港、富浦漁港の３漁港がある。

なかでも登別漁港は、いぶり中央漁業協同組合所属の地元船のほか、全国各地からのイカ釣り漁船が利用。近年は、カレイやサクラマスなどの遊漁対象魚種も豊富なことから、遊漁船やプレジャーボートの利用も増えている。

漁業は、刺し網のほか、定置網、かご、イカ釣り、ホッキ桁網などが行われ、水揚げ魚種はスケトウダラ、秋サケ、ホッキ貝、毛ガニ、カレイで全体水揚げの約90パーセントを占めている。

市では、『つくり育てる漁業』や『資源管理型の漁業』を推進し、漁業経営の安定化を進めるとともに、水産業と観光産業の連携による交流型の新しい漁港づくりに向けて整備を推進している。

恵まれた環境や風土を、未来へ手渡す

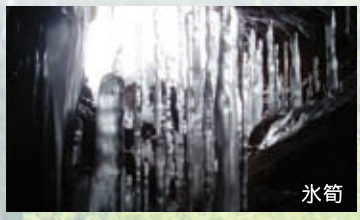
自然の宝庫・北海道にあって、支笏洞爺国立公園内に位置する登別市。豊かな自然は、四季折々に美しい姿を見せてくれる。この美しい自然の中に暮らす私たちは、恵まれた環境や風土を、未来に生きる子どもたちへ手渡したいと願う。

自然に触れ 自然に学ぶ

ネイチャーセンター『ふぉれすと鉱山』

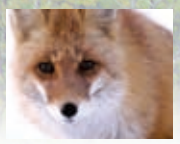
自然に親しみ、自然を学び、自然を育むためのかけがえのない施設・ネイチャーセンター『ふぉれすと鉱山』。

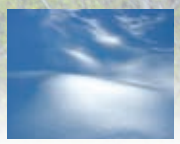
郷土の自然を愛する市民の提言と熱心な議論をもとに、『人と自然のふれあい拠点』の鉱山地区に誕生し、『自分のまちは自分たちで』という市民パワーを、生かし、引き出し、再構築することを基本理念に運営されている。

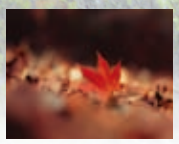

氷筍

三段の滝

橘湖







これぞ、秘湯！

川又温泉

胆振幌別川上流の山中に、ひっそりとたたずむ川又温泉。沢登りを楽しむネイチャー派にとって、癒やしの人気スポットとなっている。

貴重な湿原を保全する

キウシト湿原

環境省の重要湿地に選ばれているキウシト湿原には、希少な野生生物が生息している。

市は、このまち中に残された貴重な湿原を保全し、自然体験や野外学習、レクリエーションの場としての利活用を図るため、緑地保全事業を進めている。

ふるさとの文化を知る・伝える・創る

先人から、伝えられた日本の文化、ふるさと登別の文化。
歴史の扉をそっと押すと、先人の知恵に触れ、その息使いが聞こえてくる。
ふるさとの文化創造のステージは、私たちの暮らしのなかにある。
市は、子どもからお年寄りまで、生涯を通して学習できる社会教育活動の中で、ふるさとの文化の伝承と創造に取り組んでいる。

銀のしずく降る降るまわりに

知里幸恵（ちりゆきえ）・真志保（ましほ）

「銀のしずく降る降るまわりに
　金のしずく降る降るまわりに」
『アイヌ神謡集』の一節である。
この『アイヌ神謡集』を書き残し、19歳という若さでこの世を去った知里幸恵（1903～1922）の生誕の地は、この登別。彼女は、両親あての最後の手紙の中で、「一生を登別でくらしたい」としたためている。
また、幸恵の弟で北海道大学文学部教授の知里真志保（1909～1961）は、アイヌ民族の言語や神話、伝説などを研究し、アイヌ文化研究の基礎を確立した偉大な言語学者である。

知里幸恵

知里真志保

シンボルオブジェ『光のしずく』

登別地区の有志により、知里幸恵が書き残した『アイヌ神謡集』をモチーフに製作され、登別駅前に設置された。
冬季に点灯され、道行く人を光で魅了する。

正月用しめ飾りづくり
（文化伝承館）

歴史と文化を楽しく、正しく伝える

●郷土資料館・文化伝承館

歴史資料の展示のほか、テーマを定めて郷土の歴史や文化などの学びや子どもからお年寄りまでが楽しく学習できる『郷土資料館体験学習』などが行われている。
体験学習では、市民ボランティアグループの協力により、子どもからお年寄りまでが、楽しく学習できるさまざまなメニューを用意。『ぞうりづくり』や『ミニこいのぼりづくり』、『ひな人形づくり』といった日本の良き慣習を子どもたちに伝えている。

郷土資料館

わんぱくサムライ体験（郷土資料館）

NOBORIBETSU HISTORY

『登別150年』への旅

『刀』から『鍬』へ、

北海道農業の新天地を切り拓いた片倉小十郎。

１８６９（明治２）年、旧仙台藩の家臣で白石城主の片倉小十郎邦憲に「胆振国の内、幌別郡その方に支配仰せつけられ候事」という、明治新政府の方針が伝えられる。そのころ片倉家は、旧仙台藩の領地を取り上げられ、失地失業の状態にあった。

武士か農民かの二者択一を迫られていた小十郎は、蝦夷の新天地に起死回生の道を求める。その背景には、取り上げられた白石領のかわりに幌別郡を支配地として与えられたことや武士の姿で開拓を許されたことなどがあった。

片倉主従が幌別郡に集団移住したときは、すでに『蝦夷地』という地名はなく、松浦武四郎によって『北海道』と名づけられていた。

当初、小十郎は、長男の景範を代理にたてて幌別の指揮を行い、自分は敗戦の余波が残る仙台城で敗戦処理の指揮に当たった。

片倉家の先行隊が幌別郡内を調査した結果、農・漁・鉱の面での産業は難しいことがわかり、多くの資金と労力を必要としていた。幌別郡には、開拓役所が開所され、幌別の入植者にはそこから米・みそ２年分が支給され、冠婚葬祭のときには金米を贈るなどの優遇措置が施行された。

１８７０（明治３）年、幌別に入った小十郎は、幌別郡一帯の低温地帯の痩せ地や室蘭半島の山地を見て、開拓の前途が容易ではないと判断。しかし、政府から与えられたこの土地を自らの手で開拓するという使命感に燃えていた。資金の調達に苦労しながら、食糧・道具、生活必需品などの支援態勢を整え、開拓役所を主軸に、小十郎は開墾へと取り組み続けたのである。５戸で組合を作り、さらに農事世話係を設けたこの開墾は、永く北海道農業の方式とされたのだった。

年表

■1643（寛永20）年
・オランダ人フリースの探険により、ヤンソニウスの地図に幌別がパラピッツの名で世界に紹介される

■1669（寛文9）年
・シャクシャインの乱で、幌別コタンの長チメンハが、事実上の全軍指揮官として参戦、シズカリ（静狩）の最前線で戦死

■1800（寛政12）年
・伊能忠敬、東えぞ地の測量に着手し、6月幌別を測量する

■1838（天保9）年
・登別温泉にゆかりある岡田半兵衛が幌別場所請負人になる

■1845（弘化2）年
・松浦武四郎、初めて登別温泉に立ち寄る

■1857（安政4）年
・岡田半兵衛、私費で登別温泉の新道を改修する

■1858（安政5）年
・岡田半兵衛、登別温泉に湯治止宿小屋を建てる
・登別温泉の先駆者・滝本金蔵、登別村に移住

■1859（安政6）年
・幌別が南部領となる

■1869（明治2）年
・開拓使が設立される
・元白石城主・片倉小十郎邦憲、開拓使より、幌別郡の支配を仰せつけられる
・幌別開拓役所設置

■1870（明治3）年
・片倉旧臣21戸67人並びに職人13人が第1回移民として幌別に着く

■1871（明治4）年
・片倉の第2回移民45戸177人並びに職人15人が幌別に着く
・幌別村字浜町に刈田神社を創建
・片倉景範開拓使貫属となる

■1874（明治7）年
・幌別郡各村戸長役場をおく

■1877（明治10）年
・片倉景範が札幌郡上白石に転居

■1881（明治14）年
・幌別分校を独立して幌別小学校とし、矢内信任の邸を校舎とする

■1882（明治15）年
・開拓使を廃し、函館・札幌・根室の3県をおき、幌別郡は札幌県の所管となる

■1886（明治19）年
・ジョン・バチェラーはルイブ夫人と共に幌別に来住、伝道に従事する
・日野愛憙が屯田兵用地測量の技師を案内中、字ペンケネセに温泉を発見する（後のカルルス温泉）

■1888（明治21）年
・バチェラー相愛学校を幌別130番地に設立

■1892（明治25）年
・炭鉱鉄道会社鉄道線路中、室蘭・岩見沢間の運転開始
・幌別・登別の2停車場開業

■1901（明治34）年
・登別温泉と登別間の新道が完成、2頭びき客馬車が走るようになる
・室蘭と幌別の境界が決定
・鷲別駅設置

■1902（明治35）年
・樵夫が渓流中に露出している硫黄鉱床の露頭を発見、これが幌別鉱山のはじまり

■1905（明治38）年
・カルルス温泉が旭川陸軍予備病院の療養所となる

■1906（明治39）年
・小田良治が旭坑を開く。金銀銅鉱の採掘並びに製錬業を開始する

■1907（明治40）年
・早川某岩ノ崎で試掘を行う。これが本市における鉱山試掘のはじまり

■1908（明治41）年
・川又兵吉が鉱泉を発見、川又温泉と命名される

■1915（大正4）年
・登別温泉軌道会社が馬鉄を開通

■1917（大正6）年
・登別温泉に電話開通
・幌別郵便局で電話（窓口通話）開始

■1918（大正7）年
・登別・登別温泉間に軽便鉄道開通

■1919（大正8）年
・幌別郡3カ所を大字とし、幌別村とする。幌別村に2級町村制が施行
・幌別村第1回村会議員選挙施行
・幌別村第1回村会議会開催

■1920（大正9）年
・第1回国勢調査実施。幌別村戸数1千447戸、人口7千1人

■1924（大正13）年
・登別原始林が天然記念物として内務省より指定

■1925（大正14）年
・登別・登別温泉間に電車が走る

■1935（昭和10）年
・北海道大学医学部付属病院登別分院設立

■1942（昭和17）年
・日鉄輪西製鉄所社宅1千450戸建設着手

■1945（昭和20）年
・役場庁舎新築移転
・国立登別病院開設

■1946（昭和21）年
・厚生年金登別整形外科病院開設

■1947（昭和22）年
・大石橋与作が初代公選村長に就任
・六三制教育実施により、幌別・鷲別・登別・登別温泉の4中学校開校

■1948（昭和23）年
・幌別農業協同組合設立

■1949（昭和24）年
・幌別漁業協同組合設立

■1950（昭和25）年
・登別上水道給水開始
・登別漁港着工

■1951（昭和26）年
・町制施行
■1952（昭和27）年
・カルルス温泉にバス開通
■1954（昭和29）年
・天皇皇后両陛下ご来町
■1961（昭和36）年
・町名を登別町に変更する
・役場庁舎鉄筋3階建落成
・集中豪雨により多大の損害をうける（雨量400ミリ、死者4人、行方不明者7人、浸水家屋1千余戸）
・幌別川に工業用水ダム着工
■1963（昭和38）年
・町立登別高等学校（全日制普通課程）設立
・室蘭第2大谷高等学校を字川上に創立
・カルルススキー場完成
■1964（昭和39）年
・第1回登別温泉地獄まつり開催

■1968（昭和43）年
・開基100年記念式典挙行、町民憲章制定
■1970（昭和45）年
・市制施行

▼市制祝賀パレード

■1972（昭和47）年
・第1回登別温泉湯まつり開催
・市立図書館完成
■1974（昭和49）年
・労働福祉センターオープン
・養護老人ホーム『恵寿園』オープン
・総合体育館完成
■1977（昭和52）年
・有珠山噴火により大量の降灰を受ける
■1979（昭和54）年
・北海道登別南高等学校が開校
■1980（昭和55）年
・市制施行10周年記念式典挙行
・豪雨により大被害を受ける
■1981（昭和56）年
・老人福祉センターオープン
・郷土資料館オープン
・下水道事業着工
■1982（昭和57）年
・日本工学院北海道専門学校開校
■1983（昭和58）年
・市民会館オープン
・豪雨災害が発生、3時間雨量338ミリ、観測史上国内第3位
・宮城県白石市と姉妹都市提携
■1985（昭和60）年
・鉄南ふれあいセンター完成
・鷲別公民館完成
■1986（昭和61）年
・国際観光レクリエーション都市宣言
・新登別大橋開通
■1988（昭和63）年
・オロフレトンネル開通
■1989（平成元）年
・はまなす国体バドミントン競技会開催
・東京登別げんきかい発足

■1990（平成2）年
・市制施行20周年記念式典挙行
・第1回鬼サミット開催
・登別マリンパークニクスオープン
■1992（平成4）年
・登別伊達時代村オープン
・若草つどいセンターオープン
・中学生海外派遣事業開始
■1994（平成6）年
・総合福祉センター『しんた21』オープン
・幌別小学校新校舎完成
・川上公園野球場完成
■1996（平成8）年
・札幌のぼりべつ会発足
・登別市総合計画策定
・登別市文化・スポーツ振興財団設立
■1997（平成9）年
・岡志別の森運動公園野球場オープン
■1998（平成10）年
・核兵器廃絶を求める『平和都市』を宣言
・岡志別の森運動公園テニスコート・パークゴルフ場オープン
■1999（平成11）年
・鷲別漁港開港
■2000（平成12）年
・市制施行30周年・西暦2000年記念事業実施
・クリンクルセンター（ごみ処理施設）供用開始
・札内高原館オープン
・市制施行30周年記念式典挙行
■2001（平成13）年
・地域イントラネットの整備、地域情報センター『PiP』オープン

・キウシト湿原が環境省から『重要湿地』に指定
■2002（平成14）年
・ネイチャーセンター『ふぉれすと鉱山』オープン
・中国広州市と『友好交流促進都市』盟約締結
■2003（平成15）年
・まちづくりアクションプラン策定
・まちづくり基本条例検討委員会設置
・登別温泉ふれあいセンター『遊鬼』オープン
■2004（平成16）年
・登別温泉中学校閉校
・葬斎場供用開始
・市民プール『らくあ』オープン
■2005（平成17）年
・登別市まちづくり基本条例制定
・北海道登別青嶺高等学校開校
・登別保育所オープン（幼保一元化モデル事業スタート）
■2006（平成18）年
・第1回全国大学政策フォーラムIN登別開催
・第1回登別市市民自治推進委員会開催
■2007（平成19）年
・登別市立登別温泉小学校閉校
・北海道登別高等学校閉校
・北海道登別明日中等教育学校開校
・のぼりべつ文化交流館『カント・レラ』オープン
■2008（平成20）年
・登別温泉開湯150年記念事業開催
・北海道洞爺湖サミット開催

知恵と汗で創る明日の登別

地方分権が進展していく中、市民がいきいきと活動することができ、住むことに喜びを感じるまちを築きあげるには、市民との協働の取り組みが不可欠だ。登別市は、これまで市民自治の推進を図るため、市民との協働による、いろいろな方策を講じてきた。

例えば、審議会や市民会議、ワークショップを開くなどして、『登別市総合計画』『登別市まちづくりアクションプラン』『登別市まちづくり基本条例』など、計画・条例策定に向けた取り組みを実施してきた。

また、登別市が市制施行30周年を迎えた西暦２０００年、この記念すべき年に、市内47団体が参加した『市制施行30周年・西暦２０００年市民実行委員会』が１年間を通してさまざまなイベントを行った。これが、市民と行政の協働の取り組みに弾みをつけた。

さらには、市政を取り巻く環境がめまぐるしく変わる中、安心して暮らすことのできる住みよい環境を整えるため、『クリンクルセンター（ごみ処理施設）』や『葬斎場（火葬場）』『市民プール』などの整備を進めた。

総合計画の構成

基本構想

まちづくりの理念

（キャッチフレーズ）

人が輝き　まちがときめく　ふれあい交流都市　のぼりべつ

（理念）

自然と調和のとれた住空間、躍動する産業、観光客をあたたかく迎え入れるホスピタリティ、個性あふれる文化、豊かな人間性。

市民一人ひとりの価値観とライフスタイルが尊重され、豊かさと充実した生が実現できるまち。ここには世界の各地から人が集い、世界の情報が集まる。

そして、人が、モノが、情報が行き交い、活発な交流が生み出すエネルギーがまちにみなぎり、人々のぬくもりとふれあいを育てる。

5つのテーマ

- 豊かな個性と人間性を育むまち
- 調和の中でふるさとを演出するまち
- 大地に根ざしたたくましい産業が躍動するまち
- 自然とともに暮らすまち
- やさしさと共生するまち

4つの視点

- ◇交流と連帯のまちづくり
- ◇調和と共生のまちづくり
- ◇創造と挑戦のまちづくり
- ◇共感と協働のまちづくり

登別市総合計画

総合計画は、これからのまちづくりを方向づけるものであり、『基本構想』と『基本計画』からなっている。

基本構想は、50年後のまちの姿、人の暮らしを市民みんなの意見を聞いて描いたもの、本市が目指す都市像。

登別市まちづくり基本条例

登別市のまちづくりの基本理念を明らかにするとともに、まちづくりの主体である市民、市及び議会のそれぞれの役割や責任を明確にし、互いが協働して創造力、持続的なまちづくりを推進し、公正・公平・公開を原則とする市民自治の実現を図ることを目的に制定。

登別市まちづくり基本条例町内会説明会

熱い議論が交わされた登別市まちづくり基本条例検討委員会

登別市市民自治推進委員会

委員会では、「市民自治の推進に関することや市民と市の協働のあり方に関すること、市の進める事務・事業に関すること、また、まちづくり基本条例の見直しに関すること」などに取り組むための組織で、まちの問題点や課題について勉強会や市民自治フォーラムを行い、意見を出し合ったりして、市に提言を行うほか、市がまちづくりについての重要な施策・計画を策定するときに、企画・立案の段階などで、意見やアイディアを市に提言します。

市民自治推進委員会

市民自治フォーラム

葬斎場（火葬場）

クリンクルセンター（ごみ処理施設）

健康増進施設として建設された市民プール

人と人をつなぐ まちを未来へつなぐ

情報化社会の進展に伴い、情報基盤の整備は産業の振興や市民生活の利便性向上のために道路などと同じようにライフラインの一部になってきている。

登別市は、地域の教育・行政・福祉・防災などの高度化を図るため、大量の情報を高速に動かすことができる光ファイバー網による地域イントラネット基盤整備事業に取り組んだ。この事業の中核施設として、平成13年11月、登別中央ショッピングセンター・アーニス2階に『登別市地域情報センター』を開設。ここは、誰もが楽しめるソフトやメディア、インターネットなど、さまざまな情報とコミュニケーションできる設備を配したIT時代を担う施設だ。

また平成15年8月、登別温泉ふれあいセンターに『情報ホール』も開設。

地域情報センター
(登別中央ショッピングセンター内)

情報ホール
(登別温泉ふれあいセンター内)

まちを、海を、国境を超えて、結ばれる友情、広がる交流の輪

国際化時代を迎えた21世紀、歴史的、文化的かかわりのある都市との交流は、私たちの住むまちの魅力を再発見する機会でもあり、海外の都市との交流は、異なる生活や文化に接し、国際理解を深め、国際感覚を身につける重要な要素でもある。

登別市は、宮城県白石市と姉妹都市提携、中国広東省広州市と友好交流促進都市の盟約を締結。また、『登別マリンパークニクス』のオープンを契機にデンマークのファボー・ミッドフュン市と、さらにアメリカ合衆国自治領サイパン市と『友好都市締結』し、交流が始まった。

●宮城県白石市

明治２年、旧仙台藩白石城主の片倉家一門が開拓の鍬を入れ、現在の登別市の礎を築いたことに始まる。以来、両市の歴史的背景と市民団体などの交流により、姉妹都市の提携をした。

現在は、産業・経済・文化・福祉・スポーツなどを通して友好・親善を図っている。

また、両市の小・中学生が学校間交流を行い、お互いのまちの歴史を学び交流の輪を広げている。

●中国広東省広州市

平成12年、広州市で行った登別観光プロモーションが、平成14年“友好交流促進都市”の盟約を締結することに発展した。平成16年には、市民訪問団が盟約締結３周年記念の植樹を行なった。それ以来、良好な交流が観光、経済、文化などの分野で続けられている。

●デンマーク／ファボー・ミッドフュン市（旧リンゲ市・ウイスリンゲ市）

平成２年、登別マリンパーク・ニクス城が、ファボー・ミッドフュン市にあるイーエスコ城を模して建てられたことを契機に、交流が始まった。登別市は中学生を派遣するとともに、市民団体が受け入れる研修生の活動を支援している。平成19年６月、訪問団が現地を訪れ、友好都市提携を結んだ。

●アメリカ合衆国自治領／サイパン市

市民の相互交流及び文化、農業交流を推進するために、平成18年11月、サイパン市において市民訪問団が見守る中「友好都市締結」を結ぶ。平成20年２月、ホップウッド中学校から初めて訪問団が来登。厳寒の中、湯まつりや雪遊びを楽しんだ。

来馬岳
（高さ1040.1m）
オロフレ山
（高さ1230.7m）
加車山
（高さ897.5m）
カルルス温泉
サンライバスキー場
カルルス温泉
橘湖
新登別温泉
登別カントリー
倶楽部
市道カルルス線
足湯
地獄谷
大湯沼
登別温泉
ふれあいセンター（遊鬼）
（登別温泉支所）
登別温泉
郵便局
登別温泉
公民館
のぼりべつ
文化交流館
（カント・レラ）
のぼりべつ
クマ牧場
倶多楽湖公園線
倶多楽湖
特別養護老人ホーム
緑風園
札内不動の滝
新登別大橋
来馬川
日本工学院
北海道専門学校
札内高原館
登別伊達時代村
桜並木
インター
歓迎鬼像
道央自動車道
市立図書館
市営陸上競技場
労働福祉
センター
登別市役所
消防本部
（PiP）
岡志別の森
運動公園
葬斎場
登別東
インター
道央自動車道登別線
至白老・苫小牧→
新栄地区工業群
登別さけ・ますふ化場
婦人センター
（登別支所）
鉄南ふれあいセンター
市民プール
（らくあ）
JR富浦駅
登別
公民館
登別駅前
郵便局
至白老・苫小牧→
クリンクルセンター
（ごみ処理施設）
JR登別駅
登別マリンパークニクス
登別川
登別漁港

のぼりべつイラストマップ

NOBORIBETSU GUIDEBOOK

きらり登別

交通アクセス

バス（高速）

登別～札幌……110Km（約1時間50分）
登別～新千歳空港…74Km（約1時間）

ＪＲ（特急）

登別～札幌……約1時間5分
登別～新千歳空港……約45分

発行/北海道登別市
〒059－8701　登別市中央町6丁目11番地　TEL(0143)85－2111
ホームページ　http：//www.city.noboribetsu.lg.jp
企画・編集/登別市総務部政策推進室　情報推進グループ（広報広聴）
発行/平成21年7月